

ふくしま

再生短信

10/22 活動報告会2017 避難指示解除から半年 今何が課題か-村民の声

共感の歩み



【写真】1.東大農学生命科学研究科長・丹下健さん。2.飯館村復興対策課長・中川喜昭さん。3.山田牧場主人・山田猛史さん。4.佐須行政区長・佐藤公一さん。5.佐須老人クラブ副会長・菅野永徳さん。6.飯館村議・佐藤健太さん。7.明治大学農学部食料環境政策学科専任講師・本所靖博さん(右)、同研究室ゼミ生・仲安真凜さん(左)。8.飯館村農業委員会会長/本会副理事長・菅野宗夫さん。9.いたて花壇G「いいはな」初代リーダー(公務員)・佐藤聡太さん。10.富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー(SSL)代表取締役社長・林恒雄さん。【背景】会場全景。

2017年10月22日午後3時から、東大弥生講堂において、ふくしま再生の会活動報告会2017「避難解除から半年、今何が課題か-村民の声」が、本会主催、東大農学生命科学研究科アグリコクーン農における放射線影響FG共催、渥美国際交流財団SGRA後援、により開催。会は本会理事長・田尾陽一さんの司会で進行。

1部全体討議。東大・丹下健さん「次の世代につながる取り組みを続けたい」福島県相双農林事務所農業振興普及部長・森口さん「模索しながら畜産再興」飯館村中川課長「2011以来の再生の会の空間線量測定土壌測定に

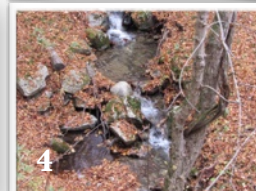
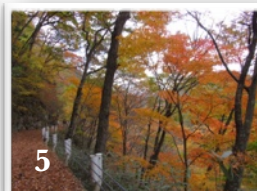
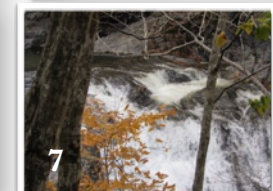
感謝、高橋日出夫さんのトルコキキョウ、山田猛史さんの畜産、なりわいも生き甲斐も大切」猛史さん「飯館で肉牛80頭目指す、次世代に繋ぐ」公一さん「再生モデル事業を進め、佐須小学校で文化の継承、再生の会と限界集落にしない交流基盤作る」永徳さん「農工商があって生活が成り立つ、仮設のログハウス移設して活力ある交流へ」佐藤健太さん「商工業に従業員集めること、村の存続こそ肝心、外国人の移住もあってよい」東大溝口勝さん「若い人のエネルギー(応援団)で老人の目が変わった」田尾「若い人集める農業高校も一案」明大本所さん「流通に

は他に負けないデザインが重要」宗夫さん「再生の会との出会い2011/6/6が原点、なりわい+環境整備+コミュニティ復興で分断克服」聡太さん「村の交流を目標見つける場に」富士通SSL林さん「村の中で考え、流通や食品など沢山の手の化学反応に期待」。

2部ポスターセッションの後、3部総括討論、田尾さん「再生事業は人と人のつながり、自然と人間の共生は東京一極集中ではなく飯館村で実現」。

懇親会は猛史さんの牛肉、宗夫さんの佐須米、ハウス野菜に舌鼓。[ポスター22枚は再生の会HPへ](#)。詳細報告書は後日発行。(撮影・文責：若林一平)

ふくしま 再生 短信



2017/11/5 野手上山遊歩道定例見回り同行記

※ の て が み や ま 野手上山絶景 ※

2017年11月5日、ふくしま再生の会が実施する「うつくしま百名山」と謳われる野手上山遊歩道の定例見回りに記者は同行した。

山の師匠、小原壮二さんと畠堀操八さんが倒木や雑草の繁茂、地形の変化などによる危険箇所の有無を入念に見回った。野手上山（標高628m、写真1）は野手神森と言われ行者の修行場として知られ、天狗が住む山として信仰されてきた。遊歩道入口に野手神山

神社大鳥居（写真2）、山頂に神社（写真12）がある。麓を周回する比曽川の溪谷（写真3～5）、新田川の溪谷（写真6～11）には紅葉を背景に深い谷に展開する清流、目を見張る大小の滝の数々。これらの景色の美しさはまさに息を呑むばかりである。午前10時半遊歩道出発、昼食をはさんで新田川の溪流から山頂をきわめて午後3時半に下山。ちょうど五時間の全行程を終えたところで、昨晚ドイツにおける人間と自然の共生・再生エネルギー展開の講義をして頂いたベルリン自由大学教授・福澤啓臣さん（右写真中央）の「出迎え」を受けた。（文責&撮影・若林一平）



山の師匠

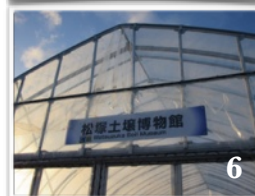
小原壮二さん（右）と畠堀操八さん、二人ともいくつもの山を踏破してきた名人である。



ふくしま

再生 短信

松塚土壌博物館建屋建設奮戦記

じ ふ ぶ き
地 吹 雪 に 咲 く

【背景写真】完成直前の博物館建屋。右手後方には高橋日出夫さんのハウス群の一部が見える。【左】1.「2/24飯館村in杉並」にメッセージを送る日出夫さん。2.日出夫ハウスのアルストロメリア。【右】3.～6.博物館建設現場。

2018年2月17～18日、お
りからの地吹雪の最中、
飯館村松塚地区田圃に於

いて松塚土壌博物館建屋建設工事が行われ
た。土壌博物館は東大国際情報農学研究教室教
授・溝口勝さんが提唱し、飯館村農業再生事
業の一環としてふくしま再生の会と協働して
推進してきた。これまでの仮設テントから展
示観察研究スペースを備えた本格的博物館に
向けて今回の工事が行われた。現場の直ぐ西

方には高橋日出夫さんのハウス群があり
2/24報告会に向けてアルストロメリアが工
事と同時進行で熱く咲き競っていた。

工事を主導したのは既に幾多の実績を誇
るハウス建設チーム棟梁・大永貴規さん。
地吹雪の強風をものともせず午後5時全工事
終了。溝口さんから現場モニター情報「松
塚現地の体感温度はマイナス27℃」が現場
一同（写真7）に伝わりこの日の「偉業」を
改めて体感した。（文責&撮影・若林一平）

2 0 1 8 3 / 2 7 第 3 9 号

ふくしま 再生 短信

2/24 飯館村 IN すぎなみ 話して、食べて、つながろう！



つながろう！村とまち

【背景写真】明治大学福島県飯館村佐須農場（ハウス）のハウレンソウ

2018年2月24日午後1時30分、ふくしま再生の会東京事務所がある杉並区阿佐谷の細田工務店杉並リボン館で、第17回報告会「飯館村INすぎなみ—話して、食べて、つながろう！」が開催された。後援は、飯館村佐須行政区活性化協議会、NPO法人CBすぎなみプラス、明治大学農学部、明大付属黒川農場、東大農学生命科学研究科アグリコクーン農における放射線影響FG、NPO法人都市農村交流推進センター、認定NPO法人ふるさと回帰支援センター、オイシックスドット大地(株)、(株)カタログハウス、(公財)渥美国際交流財団SGRA、(株)富士通SSL、(株)細田工務店。協力は大提燈米穀店★司会進行役再生の会理事長・田尾陽一さん「帰村する人と都

会の人々の協働が基本」。報告は佐須行政区長・佐藤公一さん「田尾さんを村民として大歓迎」再生の会副理事長・菅野宗夫さん「酒米成果に期待」元明治大教授・竹迫紘さん「ハウスが飛躍の梃子に」明治大黒川農場・小清水正美さん「価値の創造を」佐須老人クラブ副会長・菅野永徳さん「みなさんとの交流が大切」副理事長・大永貴規さん「遊び楽しむく農泊」を」副理事長東大院教授・溝口勝さん「ICTでつながろう」。議論はSGRA事務局長・角田英一さん「原発賛否と別の文明的課題」ほか★飯館村のく白米ご飯、ヤーコンジャムと漬物、ほうれん草のしゃぶしゃぶとパウンドケーキに一同舌鼓。18時散会。（文責&撮影・若林一平）

ふくしま

再生 短信

2018 / 4 / 15 カタクリ・ツアー同行記

カタクリ賛歌



【上の写真】カタクリの花言葉は「初恋」 うつむきかげんに切なげに咲いている。

幸運は思いがけない形でやってきた。2018年4月15日
12時55分、マキバノハナヅノ主人・大久保金一さんの

案内で今年のカタクリツアー
が始まった矢先【写真左】厚い
雲が吹き払われて柔らかい日
射しがカタクリの森に差し込
み始めた。カタクリの花にと

って願っても無い環境が実現した。カタクリにとって
大切なのは適度な日射し、隙間無く植林され日射しの
足りない森にはカタクリは咲かない。金一さんによる

と最初のカタクリが現れたのは1981年。この日のカタ
クリは「過去最高」（田尾さん）。麓に始まり群生地
に至るまで参加者一同はカタクリ三昧のひとと
きを堪能した。この日のツアーに先立ってまず
は佐野シェフが用意してくれたけんちん汁で腹
ごしらえ【写真中央】。ツア
ーを終えて下山すると金一

さん自慢の「水仙の丘」がお出迎
え。丘を背景に全員でパチリ【写
真右】。（文責&撮影・若林一平）

